

私立中学校入試、公立中高一貫校入試、全国学力調査に英語の導入を

—教育経営品質研究会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林さんは私立中学校入試、公立中高一貫校入試、全国学力調査に英語を導入すべきとお考えなのですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) はい。小学 3・4 年生で英語に親しむ授業が行われ、5・6 年生に正規の英語の授業が行われることが正式に決定されるのであれば、その時期に合わせて私立中学校でも英語の入学試験を導入すべきだと提言いたします。
- (2) これに加えて、公立中高一貫校入試や小学校 6 年生と中学 3 年生を対象として文部科学省が行っている全国学力調査にも英語の試験を導入すべきと私は提言いたします。
- (3) 正式な形で小学 3・4 年生で英語に親しむ授業、5・6 年生で正規の英語授業が行われるにも関わらず、私立中学校入試や公立中高一貫校入試、文科省の全国学力調査で英語の試験を導入しないことは、小学生の英語によるコミュニケーション能力の大幅向上に繋がらないからです。
- (4) 東大や早大・慶大をはじめ多くの大学が半分以上の教科を英語で行う計画を立て始めたためか、大学入試センター試験では実用英語検定(英検)準 1 級合格者には英語の試験を免除し、満点の 250 点を配点する計画もあるようです。
- (5) 小学校から大学まですべての教科の授業を英語で行うのは、シンガポールだけではなくなりつつあります。例えば、大学や専門学校の授業のすべてが英語で行われているインドの都市部では、月謝約 500 円で小学生から高校生まですべての教科を英語で教える「低価格私立学校」(Low Cost Private School)が普及し始めました。この全教科を英語で教える「低価格私立学校」の動きは、西アジアから北アフリカにも急速に広がりつつあります。韓国、中国、香港、台湾だけでなくアセアン諸国の小中高生の英語によるコミュニケーション能力の高さは舌を巻くほどです。
- (6) せっかく、文部科学省が下村博文 文部科学大臣の御尽力もあって小学校から本格的な英語教育をスタートし、日本人のグローバル化を促進しようとしているのですから、私立中学校や公立中高一貫校も英語を試験科目に加えて頂きたいと希望します。
- (7) 公立中高一貫校の入試は「適性試験」プラス「抽選」を早急に廃止し、私立中学校と同じように学力試験一本ですべきと考えます。私立も公立も学校の設立の理念、社会的使命(ミッション)を明確にした上で、学校の教育の質を向上させてお互いに切磋琢磨することによ

り生き残りを図るべきと考えます。

(8) 小学校で英語が指導されるのであれば、全国学力調査は算数・数学と国語の 2 科目に限定するのではなく、英語も導入して英語学習を大いに促すべきと考えます。

Q：どのような内容の英語の入試や試験にすべきとお考えですか。

A：(1) 英語によるコミュニケーション能力を向上させる試験を目指すべきです。英語の「読む」(Reading)と「聞く」(Listening)の 2 技能という従来型の試験だけでなく、「話す」(Speaking)と「書く」(Writing)の 2 技能を加えた 4 技能を同一の配点で評価する試験を目指すべきです。

(2) 4 つの各技能ごとに習得段階のレベル分けをして、レベルごとの詳細な CAN DO LIST(キャン・ドゥ・リスト)、つまり、この技能については、この段階ならこのようなことをすることができるというリストを、英語の試験の作問者は予め作成して受験者に示し、自己学習を促す。「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR セフアール)を参考にして、試験を受ける受験生の立場に立った作問、出題が期待されます。

(3) 実用英語検定(英検)の評価が高いのは、5 級から 1 級までの CAN DO LIST が 4 技能に分けてレベル別にできているからです。

(4) 学力のレベルは A₁ A₂ B₁ B₂ C₁ C₂ と 6 つに分かれます。A₁ が初級、C₂ が熟達です。ヨーロッパの語学教科書にはすべてこの 6 つのレベル表示があります。

(5) 日本でも CAN DO LIST に基づいた外国語教科書の出版が始まりました。NHK ラジオスペイン語講座 2013 年 4 月～9 月(2014 年 10 月～2015 年 3 月再放送予定)のテキストは、現時点で最も優れたものと高く評価されます。

(6) 入試の作問者にも相当の能力が求められます。

Q：そうであるならば、自校で作問ができるようになるまで、私立中学校入試の英語に代えて実用英語検定の 1 年以内の「○級合格」を合格の条件とすればよいのではないのでしょうか。

A：(1) その通りです。私は「英検」を英語の入試に代用すべきと考えます。「英検」の試験自体をもっともっと磨き込んだ上で、私立中学校、公立中高一貫校、私立高校、公立高校、高等専門学校(高専)、大学、短期大学、専門学校などの入試は「英検」で代用することが、日本人の英語によるコミュニケーション能力向上に役立つと考えます。

(2) 小学生でも英検に合格できるか。例えば、群馬県太田市にある国語と社会以外はすべての教科を英語で指導する「群馬国際アカデミー」(小 1～高 3)に入学を希望する多くの受験生は、幼稚園の年長で英検 3 級に合格。小学生のうちに英検 2 級に合格する児童も少なくありません。

(3) 首都圏の私立中学校を目指す小学生の多くも、本格的な受験勉強が始まる 5 年生になるまでに英検 3 級だけは取っているようです。

(4) 私立中学校入試の条件として英検 3 級または準 2 級合格を示すことは一つの見識と私は考えます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者、経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)英語を担当する先生方とともにヨーロッパの外国語学習のための共通参照枠(CEFR セフ
ァール)や英検の CAN DO LIST を研究した上で、小学生から中学生、高校生に到る 6 年間
あるいは 12 年間の独自の一貫した英語教育の「CAN DO LIST のカリキュラム」をまずは
策定。

(2)その上で、独自の教材(テキストとテスト、補助教材)を英語の各先生が執筆、作成。自力
で作成できない人は最も適切なものを選択、購入、活用。

(3)毎授業ごとに「教案(Lesson Plan レッスンプラン)」を作成して授業を展開。授業終了後
は毎回「省察(Reflection リフレクション)」。レッスンプランを先生としての成長の記録と
する。

(4)以上のようなスキルを持つ本格的なプロの英語の先生の採用と育成に励むべきと考えま
す。

(5)例えば、日本国内であれば新潟県南魚沼市にある国際大学の英語教師を含む英語のサマー
プログラム(7、8月 8 週間)への派遣は、現職の英語の先生の研修に最適です。

(6)有能な英語の先生を採用し、高い目標を与え続けて評価し(ストレッチアセスメント)育成
し続けること。経営者の役割は「人づくり」に尽きます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：本年も日本最古の学校、足利学校のある街、栃木県足利市で第 9 回全国模擬授業大会が 5 月 25
日(日)に足利工業大学附属高校をお借りして開催されます。また、足利市は日本で最も働く人の
自主性を尊重した 5S 活動が盛んで、2012 年には「第 1 回世界 5S サミット」まで開催されまし
たので、翌 26 日(月)にはそのコンパクト版視察会を行います。(「第 2 回世界 5S サミット」は
来年 11 月開催予定です。)開倫塾 62 校舎の取り組み(開倫 5S 学校)も現地で御視察ください。「教
え方日本一」と「サービス産業の生産性向上」の 2 つの取り組みが御覧頂けます。是非、御参
加ください。

お詫び

本月号は、バンコクからの報告の予定でしたが、経済産業省サービス政策課とジェトロ、経済
同友会(東京)国際化推進プロジェクトチームの 3 者の合同企画のバンコクでの国際会議(1 月 12
日～14 日)は会場付近がデモ隊に包囲されたため中止となりました。

お詫び申し上げます。

林明夫プロフィール

- ・開倫塾 塾長
- ・国立大学法人 宇都宮大学大学院工学研究科、客員教授
- ・公益社団法人経済同友会(東京)幹事、サービス産業国際化推進プロジェクト 副委員長
- ・足利商工会議所 議員
- ・足利 5S 学校 役員
- ・第 1 回世界 5S 大会 実行委員会 副委員長